

2022年度 事業報告書

2022年4月1日～2023年3月31日

I	2022年度事業報告 事業の体系図	1
II	2022年度事業報告一覧	2

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団



事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
公1 絵本美術館の設置運営					
ア 絵本等に関する展覧会、講演会、ギャラリートーク等の開催					
■ちひろ美術館・東京での展覧会、講演会、ギャラリートーク等					
【いわさきちひろ展】	幼い日に見た夢 いわさきちひろ展	ちひろは、兩大戦間の東京・山の手で恵まれた少女時代を過ごした。その後、青春時代を戦争に翻弄されたちひろにとって、平和で豊かな子ども時代の思い出は、生涯、鮮明に心に刻まれていた。本展では、ちひろの幼少期に焦点をあて、ちひろが子ども時代に接した童画とそこから受けた影響、そして幼い日の思い出をテーマに、ちひろが手がけた絵本などを紹介した。	10,100名	3月12日～6月19日	ちひろ美術館・東京
	ちひろ・花に映るもの	花はちひろが生涯にわたり繰り返し描いたテーマだった。本展では、ちひろの創作の源泉となった「花」に焦点をあて、ちひろの技法、1960年代の花の表現の変遷、花が登場する絵本『おやゆび姫』（アンデルセン）と『花の童話集』（宮沢賢治）、平和の思いを花に託した『わたしがちいさかったときに』『戦火のなかの子どもたち』などを紹介した。	7,697名	6月25日～10月2日	ちひろ美術館・東京
	くらし、えがく。ちひろのアトリエ	ちひろが画家として出発した神田の下宿や、亡くなるまで22年間を過ごした練馬の自宅のアトリエ、1966年に信州北端の地に建てた黒姫山荘を紹介、そこでちひろがどのように暮らし、絵を描いたのかを、作品や資料などを通して展覧した。とくに再現アトリエの設定年である1972年に焦点をあて、この年のちひろの作品やことばを通して、当時のちひろの思いに迫った。	7,574名	10月8日～2023年1月15日	ちひろ美術館・東京
【企画展示】	エリック・カールとアメリカの絵本画家たち	2021年に91歳で亡くなった絵本画家エリック・カール。その色彩豊かな絵本は世界中に知られている。本展では、カールの人生と絵本、ちひろ美術館との関わりなどを紹介した。同時に、当館コレクションより、アメリカで最古の絵本賞であるコールデコット賞受賞画家たちの作品を展示した。	(10,100名)	3月12日～6月19日	ちひろ美術館・東京
【世界の絵本画家コレクションの展示】	ちひろ美術館コレクション 江戸からいまへ 日本の絵本展	日本で広く絵本（絵入り本）が読まれるようになったのは、印刷技術が進歩して版本が流通するようになった江戸時代のこと。本展では江戸時代を起点に、現代までの絵本の歩みと広がり、ちひろ美術館コレクションをもとに、およそ400年の間に日本の絵本がどのように変化し、発展したかを紹介した。	(7,697名)	6月25日～10月2日	ちひろ美術館・東京
【講演会】	「江戸からいまへ 日本の絵本展」関連 西村繁男講演会(オンライン) 「日本の歴史を絵本に描く」	日本の歴史を『絵で見る日本の歴史』『絵で読む広島原爆』などの絵本に描いている西村繁男が、自身の絵本づくりについて語った。	29名	7月24日	ちひろ美術館・東京(オンライン)
	「エリック・カールとアメリカの絵本画家たち」関連 松本猛講演会「ちひろ美術館とエリック・カール」(オンライン)	エリック・カールと親交を深めた松本猛が、ちひろ美術館に収蔵されているエリック・カール作品や、エリック・カール絵本美術館にまつわるエピソードなどを語った。	15名	4月23日	ちひろ美術館・東京(オンライン)
	「くらし、えがく。ちひろのアトリエ」関連 村上藍講演会「奥村まことが設計したちひろのアトリエ」(オンライン)	ちひろの黒姫の山荘兼アトリエについて、その設計を担当した建築家・奥村まことを研究している村上藍が、図面や写真などをまじえて講演した。	56名	10月16日	ちひろ美術館・東京(オンライン)
	「くらし、えがく。ちひろのアトリエ」関連 松本猛講演会「ちひろのアトリエ」(オンライン)	ちひろの練馬の自宅のアトリエについて、ちひろの子・松本猛が、写真や画像をまじえて講演した。	34名	11月13日	ちひろ美術館・東京(オンライン)
	「エリック・カールとアメリカの絵本画家たち」関連 ちひろ美術館コレクションのアメリカの絵本画家たち	ちひろ美術館コレクションを中心にエリック・カールとアメリカの絵本の魅力について担当学芸員がスライドを用いて解説した。	14名	3月27日	ちひろ美術館・東京
【ギャラリートーク】	松本猛ギャラリートーク	松本猛が、母の思い出や作品にまつわるエピソード、展示の見どころなどを語った。	各回15名	4月24日、7月31日	ちひろ美術館・東京
	展示担当者、普及担当者によるギャラリートーク	開催中の各展示の見どころ等を、作品を見ながら展示担当者や普及担当者が解説した。	各回15名	毎月第1・3土曜日	ちひろ美術館・東京
■安曇野ちひろ美術館での展覧会、講演会、ギャラリートーク等					
【いわさきちひろ展】	ちひろが描いた 映画と音楽	ちひろの感性を豊かに育み、ときに心の支えになっていた映画と音楽は、絵本の制作にも生かされている。本展では、若いころにちひろが親しんだ映画や音楽を紹介するとともに、『はくちょうのみずうみ』『あかいくつ』『ふたりのぶとうかい』『あかいふうせん』などを展示し、映画や音楽と、絵本制作との接点を探った。	18,807名	3月1日～5月29日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ 雨の日 晴れの日	ちひろは、季節や時間帯によって多彩な表情を見せる光や空、雨の情景を瑞々しい感性で描いた。四季の空の下で遊ぶ子どもを描いた作品、雨にうるむ『あめのひのおるすばん』、夏の光が輝く『ぼちのきたうみ』などを展示、水彩のにじみを駆使した技法に注目して紹介した。	29,913名	6月4日～9月4日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろからの定期便 「子どものしあわせ」と「こどものせかい」	ちひろは、人々の日々のくらしを彩る絵を描きたいと、印刷美術を発表の場を選んだ。月刊の絵雑誌や雑誌でちひろの絵を定期的に楽しんでいた読者も多い。月刊誌のなかでも「子どものしあわせ」と「こどものせかい」は、制約が少なく自由に描けたことから、時代ごとの代表作が生まれた。同誌の仕事を中心に、印刷技術と画風の変遷をあわせて紹介した。	24,217名	9月10日～12月4日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろの人生	ゆかりの品々や資料、ちひろの人生を紹介するパネルなどにより、ちひろの絵と人生、その人柄を伝えた。		通年	安曇野ちひろ美術館
	小企画展示 世界中のこどもみんなに平和としあわせを	2月24日から続くウクライナでの戦争を受け、当初の予定を変更して、1963年のソビエトの旅でちひろがキエフを描いたスケッチや、戦争を描いた『戦火のなかの子どもたち』などを展示し、ちひろの平和への願いを伝えた。		通年	安曇野ちひろ美術館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
【いわさきちひろ展】	子どもの展示室「トットちゃんの部屋」	『窓ぎわのトットちゃん』に登場する電車の教室の一部再現や、ちひろの絵で楽しむトットちゃんの物語、トモエ学園の紹介など、トットちゃんの世界を子どもたちの目線で楽しむことのできる展示を行った。		通年	安曇野ちひろ美術館
【世界の絵本画家コレクションの展示】	ちひろ美術館コレクション わたしたちは 集い、歌い、踊る	世界的な感染症拡大によって自由な行動や表現だけでなく、人と会うことまで制限されるなか、本展では荒井良二のインスタレーションをはじめ、お祭りやパレード、コンサートなどを描いた高揚感あふれる世界の絵本画家たちの作品を展示し、集うことの尊さ、歌い、踊ることの喜びを見つめた。	(18,807名)	3月1日～5月29日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション 絵本から飛び出せ！動物たち	地球上で、わたしたち人といっしょに生きる動物たち。変化に富んだ複雑な生息環境や、ときには人との関わりによって、多様な種に分かれた動物たちは、それぞれがユニークな特徴を持っている。本展では、世界各国の絵本画家が描いた動物たちを、かれらが暮らす環境をたどる6つのテーマにわけて紹介した。	(29,913名)	6月4日～9月4日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション 絵本画家の絵の具箱	水彩や油彩、テンペラ、パステル、カラーマーカーなどの画材に注目し、世界の絵本画家の作品を紹介した。	(24,217名)	9月10日～12月4日	安曇野ちひろ美術館
【絵本の歴史展示】	絵本の歴史	「死者の書」や時禱書、絵巻物から20世紀初頭の絵本にいたるまで、絵本とイラストレーションの歴史に関わる作品・資料を、「手描き本の時代」「版本の時代」「子どもの本の時代(印刷本)」の3つの時代に分けて紹介すると同時に、第二次世界大戦中の子どものための絵雑誌も展示した。		通年(会期ごとに入れ替え)	安曇野ちひろ美術館
【企画展示】	谷内こうた展 風のゆくえ	谷内こうた(1947-2019)は、叔父谷内六郎のすすめで描いた初めての絵本『おじいさんのばいおりん』で1969年にデビューした。その後、『なつのあさ』が日本人として初めてポローニャ国際児童図書展グラフィック賞を受賞、早くから国内外で注目を集めた。本展では、絵本原画とともに、「週刊新潮」などの雑誌の表紙絵や終生手がけた油彩画も展示し、谷内こうたの画業を紹介した。	(24,217名)	9月10日～12月4日	安曇野ちひろ美術館
【講演会】	「絵本から飛び出せ！動物たち」関連 動物園の飼育員さんに聞いてみよう！絵本の動物たちのリアル	長野市城山動物園の飼育員高田孝慈による、動物たちのリアルな生態の解説を通して、絵本に描かれた動物たちの魅力を紹介した。	22名	6月19日	安曇野ちひろ美術館
	「谷内こうた展」関連 谷内富代トークイベント「谷内こうたとの思い出を語る」	谷内こうたの妻である谷内富代が、谷内こうたとの思い出や展覧作品のエピソードを語った。	29名	9月10日	安曇野ちひろ美術館
	「谷内こうた展」関連 松本猛講演会「谷内こうたの絵本を語る」	谷内こうたと親交を深めた松本猛が、谷内こうたの絵本や作品について語った。	40名	11月3日	安曇野ちひろ美術館
【ギャラリートーク】	学芸員によるスライドトーク	学芸員が開催中の展覧会の見どころをスライドを用いて解説した。	150名	4月23日、5月28日、8月21日、9月25日、10月23日、3月26日	安曇野ちひろ美術館
■他館と提携する展覧会、講演会、ギャラリートーク等					
【展覧会】	いわさきちひろ展 中谷泰を師として	ちひろが画家として歩み始める前、大きな影響を受けたひとりに洋画家・中谷泰の存在があった。本展では、作品や資料をもとに、ふたりの画家の共通点と独自性をさぐり、知られざる側面に光を当てた。	24,435名	7月16日～8月28日	三重県立美術館(三重県津市)
	いわさきちひろと奥村まこと 生活と仕事	ちひろの黒姫山荘の設計や、練馬の自宅の増築にも関わった奥村まこと。自らの日常を大切にしながらも、仕事も存分にこなした画家・ちひろと、建築家・奥村まこと、ふたりの女性の生き方と仕事を、ピエゾグラフや資料、図面、関係者の証言映像などとともに紹介した。	2,446名	6月3日～9月8日	ギャラリーエークウッド(東京都江東区)
	ピエゾグラフ作品によるいわさきちひろ展	ピエゾグラフ作品によるいわさきちひろ展を、開催希望自治体、団体、施設と協力して行った。	4,825名	①3月18～6月6日 ②6月17日～9月5日 ③9月17日～11月28日 ④12月9日～2023年3月6日	「ちひろの生まれた家」記念館(福井県越前市)
	ピエゾグラフ作品によるいわさきちひろ展	ピエゾグラフ作品によるいわさきちひろ展を、開催希望自治体、団体、施設と協力して行った。	752名	2023年2月11日～2月26日	パレア若狭 ギャラリー(福井県若狭町)
	田島征三 アートのぼうけん展	田島征三『ふきまんぶく』原画5点を展覧した。	7,505名	4月23日～6月12日	刈谷市美術館(愛知県刈谷市)
	荒井良二のPICTURE BOOK<絵・本>	荒井良二『ユックリとジョジョニ』原画23点を展覧した。	3,542名	6月25日～9月5日	高志の国文学館(富山県富山市)
【展覧会】	絵本原画ニヤ展 猫が歩く絵本の世界	瀬川康男『ふたり』原画5点を展覧した。	8,460名	7月30日～10月10日	一宮市三岸節子記念美術館(愛知県一宮市)
	第2回やなせたかし文化賞受賞者展	西村繁男『にちよういち』原画26点を展覧した。	6,256名	9月7日～11月28日	香美市立やなせたかし記念館(高知県香美市)
	今、あなたにつたえたいミリオンセラー・ロングセラーの絵本たち	いわさきちひろ『おふろでちやぶちやぶ』原画4点、ピエゾグラフ2点、ちひろ美術館コレクション原画16点を展覧した。	9,039名	9月30日～11月6日	福井県立美術館(福井県福井市)
【ギャラリートーク等】	トークショー「ちひろの生活と仕事」「ちひろと建築」	ちひろの暮らしぶりや仕事について、松本猛に、担当学芸員が聞き手となり話を聞いた。	会場64名、配信21名	7月7日	ギャラリーエークウッド(東京都江東区)

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
【ギャラリートーク等】	ワークショップ「ちひろの水彩技法体験と絵本の読み聞かせを楽しもう」	ちひろの水彩技法「にじみ」を体験し、しおりを作成するワークショップとともに、ちひろが手がけた絵本や紙芝居の読み聞かせを行った。	18名	8月27日	ギャラリーエークウッド(東京都江東区)
	あづみのミュージアム講座「いわさきちひろと信州」	安曇野市の美術館と提携し、ちひろと信州のゆかりや信州で制作した絵本やスケッチなどについて、学芸員がスライドを用いて解説した。(オンライン含む) * 文化庁: 令和4年度文化芸術振興費補助金 (Innovate MUSEUM) 事業	33名	11月11日	安曇野市役所本庁舎
	さくまゆみこ講演会「子どもの本から世界を見れば」	松川村図書館と共催し、JBBY(日本国際児童図書評議会)会長で翻訳家のさくまゆみこが、IBBY(国際児童図書評議会)の成り立ちや活動、世界の子どもの本について語る講演会を開催した。	20名	11月12日	松川村 すずの音ホール
	オンラインギャラリートーク	安曇野市の美術館と提携し、学芸員が開催中の展覧会の見どころを解説する動画を制作し、オンデマンド配信した。 * 文化庁: 令和4年度文化芸術振興費補助金 (Innovate MUSEUM) 事業		12月22日～	安曇野市(オンデマンド)

イ 絵本等に関する作品・資料の収集・保存、並びに調査・研究

作品・資料の収集	絵本原画、関連資料等の収集	いわさきちひろの作品2点(寄贈と寄託各1点)、司修作品19点(購入)、ユゼフ・ヴィルコン作品1点(寄贈)、ズビグニェフ・リフリツキ作品2点(寄贈)、出久根育作品5点(寄託)、荒井良二作品270点(寄託)、伊藤秀男作品40点(購入)、アンドレア・ペトルリック・フセイノヴィッチ作品1点(寄贈)を、新規に収集した。		通年	両館
	絵本と絵本の歴史資料の収集	時代のエポックとなり、未来に継承すべき優れた芸術性を持つ絵本の資料・絵本の歴史資料の収集を進めた。		通年	両館
	絵本、関連書籍等の収集	優れた芸術性を持つ、魅力的な絵本の収集を進めた。		通年	両館
作品・資料の保存	作品・資料の保存管理	絵本原画を中心とした収集作品や、絵本の歴史関連資料の適切な保存管理を行なうとともに、画像データベース等での作品整理を進めた。		通年	両館
	作品・資料のデジタル・アーカイブス	いわさきちひろ(ピエゾグラフ 68点・データ購入 4点)・世界の絵本画家(スキヤニング 4点)のデジタル・アーカイブスを行った。		通年	両館
	作品・資料の修復	三重県立美術館での館外展に出展のため、ちひろの初期素描(丸木俊像)2点の修復を行った。		随時	両館
作品・資料の調査・研究	コレクション作家等の調査・研究	エリック・カール、谷内こうた、中谷泰、初山滋等の作品や人物像について、展覧会とあわせて調査・研究を行い、調査資料のドキュメンテーションを進めた。		通年	両館
	作品・資料等のアーカイブス	DBシステムに登録した作品(原画とピエゾグラフ)、図書、遺品、歴史展示資料などのさらなるデータ整備を行った。ちひろに関するこれまでの調査研究資料ならびに、2022年度に刊行した図録、シャピロ・コレクションに含まれる画家26名の音声記録(カセットテープ)などのデジタル化を進めた。		通年	両館
	絵本とイラストレーションの歴史の調査・研究	絵本とイラストレーションの歴史に関する資料の整理、調査・研究を進めた。特に日本の歴史資料の調査を進め、展覧会にいかした。		通年	両館
	絵本等に関する調査・研究	新旧の絵本の表現、テーマ、絵本の造形について、外部の研究者とも連携しながら調査・研究を進めた。		通年	両館
	研究成果の公開 公式サイトでの作品、展示解説掲載	調査、研究の成果を展覧会等に活かすとともに、作品解説、展示解説等にまとめ、逐次、公式サイトにアップロードし、国内外にむけて発信した。		通年	両館
	研究成果、活動成果の公開 「美術館だより」の発行(展示会期ごと)	研究や活動の成果を、展示紹介、活動紹介等にまとめ、展覧会にあわせて発行する「美術館だより」や公式サイトを通じて、公開した。		通年	両館

ウ 絵本等に関する教育活動

ワークショップ・講座の開催	ファーストミュージアムデー	「ベビーカーでお出かけしよう!」と題して、乳幼児とその保護者を対象に、子どもといっしょに美術館を楽しめる、ファーストミュージアムデーを、長野県の「いい育児の日」の11月19日を含め、年2回開催し、展示を中心に館内各所での鑑賞会や、絵本の読み聞かせ、ふれあい遊びを行った。	計48名	4月2日、11月19日	安曇野ちひろ美術館	
	ちひろが愛した映画上映会	「ちひろが描いた映画と音楽」展に関連して、ちひろが愛した映画「トップハット」「しのび泣き」の上映会を行った。	17名	4月17日	安曇野ちひろ美術館	
	親子で楽しむ文化講座 わらべうたあそび	0、1、2歳の乳幼児とその保護者を対象に、わらべうたあそびの会を開催した(講師:服部雅子・西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)。	計57名	5月21日、9月3日(ここまでオンライン)、11月19日	ちひろ美術館・東京(一部オンライン)	
	ワークショップ ちひろの水彩技法体験「空を描こう」	「ちひろ 雨の日晴れの日」展に関連して、ちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を使って、空を描くワークショップを行った。	25名	7月3日	安曇野ちひろ美術館	
	ちひろ忌		ちひろが亡くなった8月8日にあわせて、ギャラリートーク等を行い、ちひろの業績や人生を伝えるとともに、世界中の子どものしあわせと平和を願ったちひろの思いを、来館者とともに考える機会とした。	136名	8月7日	ちひろ美術館・東京
			516名	8月8日	安曇野ちひろ美術館	
	松本猛講演会「江戸からいまへ 日本の絵本の歩み」	練馬区内の図書館と提携し、開催中の展覧会「江戸からいまへ 日本の絵本の歩み」の理解を深める講演会を行った。 * 文化庁: 令和4年度文化芸術振興費補助金 (Innovate MUSEUM) 事業	39名	9月17日	練馬区立石神井図書館、他区立図書館2館にサテライト中継	
	美術館の所蔵品カードワークショップ	ちひろ美術館と練馬区立美術館の所蔵品カードを用いて、アートを楽しむワークショップを行った。 * 文化庁: 令和4年度文化芸術振興費補助金 (Innovate MUSEUM) 事業	計43名	10月1日、2023年2月4日	練馬区立石神井図書館ほか	
オンラインによる出久根育アトリエトーク	「絵本画家の絵の具箱展」に関連して、絵本画家出久根育のチェコのアトリエから、画家自身が作品や制作、チェコでの暮らしについて語った。	57名	10月1日	安曇野ちひろ美術館(オンライン)		

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
ワークショップ・講座の開催	子どもの幸せと平和を考える講座 親業講演会「—今日から実践できる— 子どもに気持ちが伝わる話し方」	「親業訓練」を通して、親子のよりよいコミュニケーションを学ぶ講演会を開催した(講師:田中満智子・親業訓練協会インストラクター)。 *文化庁:令和4年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業	15名	10月29日	ちひろ美術館・東京
	ワークショップ「あなたの好きを描こう、つくろう」	外国語を母語とする3歳～12歳の子どもたちに向けて、ワークショップを開催した。講師のガイドで、アートを通じたコミュニケーションを楽しんだ(講師:富田めぐみ・NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)。 *文化庁:令和4年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業	6名	12月10日	ちひろ美術館・東京
	あかちゃんのための鑑賞会	0、1、2歳の乳幼児とその保護者を対象にした、あかちゃんのための鑑賞会を開催した(講師:富田めぐみ・NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)。 *文化庁:令和4年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業	16名	12月11日	ちひろ美術館・東京
	子どものための鑑賞会	3歳児～小学1年生とその保護者を対象にした、幼児～児童のための鑑賞会を開催した(講師:富田めぐみ・NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)。 *文化庁:令和4年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業	14名	12月11日	ちひろ美術館・東京
	ちひろのアトリエトーク	展覧会「くらし、えがく。ちひろのアトリエ」の会期中、ちひろの仕事が最も充実していた1972年頃の様子を部屋ごと忠実に復元している「ちひろの復元アトリエ」にて、愛用の品々や制作の舞台裏、家族との日々の暮らし、そして作品の技法などについてトークを行った。	各回10名	2023年1月4～6日、11～13日)	ちひろ美術館・東京
	鑑賞会「目の見えない白鳥さんといっしょにちひろの絵を楽しもう」	全盲の美術鑑賞者である白鳥建二さんを迎え、「くらし、えがく。ちひろのアトリエ」展を、会話をしながら鑑賞した。 *文化庁:令和4年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業	6名	2023年1月8日	ちひろ美術館・東京
	ちひろの水彩技法体験「にじみの缶バッジづくり」	いわさきちひろが得意とした水彩技法の「にじみ」を体験し、好きな部分を切り抜いて、缶バッジをつくるワークショップを行った。	25名	2023年1月11日	ちひろ美術館・東京
	ちひろの絵による『窓ぎわのトットちゃん』ワークショップ	安曇野ちひろ公園トットちゃん広場と安曇野ちひろ美術館館内において、『窓ぎわのトットちゃん』のさまざまなエピソードを元に、関連したワークショップ等を、地域の人々や地元の学校の協力を得て、開催した。		随時	安曇野ちひろ公園・安曇野ちひろ美術館
学校との提携活動	地元中学校との提携活動—中学生ボランティア	松川中学校と連携し、19名の中学生ボランティアが、8月6日～8月8日の3日間、来館者を対象に、絵本の読み聞かせを行った。また38名の中学生ボランティアがワークシート「松川中学生と楽しむ安曇野ちひろ美術館わくわくたんけんシート」を作成し、8月4日～9月4日の1ヶ月間、館内にて配布した。	計1,016名	8月4日～9月4日	安曇野ちひろ美術館
	出前授業、出前講座	ちひろの画業や絵の魅力を伝え、その技法を体験するワークショップを含めた出前授業を学校等に出向いて実施した。	16名	9月20日	明晴学園(東京都)
			72名	10月18日	松川小学校(北安曇郡松川村)
			30名	11月14日	南木曾中学校(木曾郡南木曾町)
			72名	12月9日	松川小学校(北安曇郡松川村)
			計88名	2023年2月13日、2月21日	三谷小学校(東京都杉並区)
		出張美術館展を実施し、鑑賞授業を行った。 * 令和4年度元気づくり支援金事業	計91名	10月13日、14日	小谷中学校(北安曇郡小谷村)
		安曇野市の美術館等と連携し、あづみの学校ミュージアムを実施し、鑑賞授業を行った。 * 文化庁:令和4年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業	145名	2023年1月26日	穂高東中学校(安曇野市)
	学校団体への各種教育プログラム	授業で来館した学校に対し、開催中の展覧会の鑑賞教育をはじめ、各種教育プログラムを行った。	計224名	7月21日、9月13日、9月27日、9月29日、10月14日、11月10日、11月29日	ちひろ美術館・東京
			計103名	9月13日、27日、29日、10月14日	安曇野ちひろ美術館
	スクールミュージアム	長野県内の希望校を対象に、複製画等の貸し出しを行った。		5月24日～6月6日	安曇養護学校(北安曇郡池田町)
			7月1日～8月5日	寿台養護学校(松本市)	
			7月27日～10月14日	池田工業高校(北安曇郡池田町)	
			9月26日～10月8日	南木曾中学校(木曾郡南木曾町)	
大学での講義	静岡大学教育学部開講科目「生涯学習概論Ⅱ」における「博物館の機能と役割」の単元で、安曇野ちひろ美術館の活動について当館学芸員がオンラインでの講義を行った。	56名	12月8日	静岡大学(オンライン)	
職場体験実習の受入	練馬区近辺からの職場体験実習を受入れ、美術館業務を体験する博学連携の活動を行った。	計4名	6月30日、9月27日	ちひろ美術館・東京	
	地元の松川中学校、池田工業高校からの職場体験実習を受入れ、美術館業務を体験する博学連携の活動を行った。	計4名	7月25日～7月28日	安曇野ちひろ美術館	

エ 絵本等に関する普及活動

絵本等の公開・閲覧	両館での絵本図書室・絵本カフェによる絵本の公開・閲覧	長きに渡って愛され続ける絵本とともに、新刊等幅広い国内外の絵本を、絵本の専門美術館としての視点で選書し、両館の絵本図書室・絵本カフェ等に配架して閲覧ができるようにした。		通年	両館
-----------	----------------------------	--	--	----	----

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
絵本等の紹介活動	コレクション画家・企画展画家・その他の世界の絵本画家の絵本等の紹介、頒布、レファレンス、読み聞かせ指導、読書指導	当館の視点で選書した国内外の絵本を、公式サイト等で紹介、普及、頒布するほか、幅広い求めに応じて適宜選書や読み聞かせの方法等についてアドバイスを行い、身近に絵本を楽しめるよう支援した。		随時	両館
読み聞かせ会	絵本のじかん(絵本の読み聞かせ)、絵本の広場等の開催	絵本の理解を深め、展示鑑賞をより充実したものとするため、両館それぞれで、定期的に絵本の読み聞かせ会を開催した。また同様に、学校・保育園等からの団体鑑賞に際して、読み聞かせを行った。	計20回294名	毎月第2・4土曜日	ちひろ美術館・東京
			計19回364名	毎月第2・4土曜日	安曇野ちひろ美術館
地域・団体との提携による複製画展	各地の自治体、地域、団体との提携による、複製画展等の開催	各地の自治体、地域、団体等の求めに応じて、複製画展や関連の講演会を開催するとともに、絵本に親しむ機会を設け、読み聞かせ会等を実施した。	256名	11月22日	新日本婦人の会八王子支部(東京都八王子市)
			5937名	11月23日～12月18日	国営アルプスあづみの公園(安曇野市)
	施設・団体・学校との提携による、平和のパネル展の開催	ちひろの平和への願いを伝えるために、平和の絵本2冊のパネルを、希望する施設・団体・学校に貸し出した。		4月18日～4月29日	三郷市役所(埼玉県三郷市)
				7月22日～8月27日	北新宿図書館(東京都新宿区)
			357名	8月3日～8月16日	蕨市立旭町公民館(埼玉県蕨市)
			60名	8月5日～8月15日	山陽小野田市厚狭図書館(山口県山陽小野田市)
	380名	8月26日	新宿平和展実行委員会(東京都新宿区)		
病院との提携活動	季節ごとの病院院内展示・ワークショップの開催	来館が難しい患者やその家族を対象に、病院内での複製画展を行うとともに、絵本に親しむ機会を設けた。		随時	東京女子医科大学病院、聖路加国際病院、長野県立こども病院、埼玉医科大学総合周産期母子医療センター、国立成育医療研究センター、同センター内医療型短期入所施設「もみじの家」、富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

オ 絵本等に関する国際交流

海外における展覧会・講演会、ワークショップ	シンガポール・AFCCにおけるちひろのオンライン展覧会	シンガポールブックカウンシル(SBC)が主催する、AFCC(Asian Festival of Children's Contents)からの要請を受け、5月26日から開催されたBIG2022(Book Illustrators' Gallery)に参加。アジアの女性画家10人を紹介する「アジアの女性画家ギャラリー」に、ちひろの作品10点をオンラインで出品、紹介した。		5月26日～	シンガポール(オンライン)
海外からの研修受入と交流	海外の絵本関係者の研修・交流	アメリカの児童文学研究者レナード・マーカス氏の最新刊 <i>Pictured Worlds: Masterpieces of Children's Book Art by 101 Essential Illustrators from Around the World</i> (描かれた世界:もっとも重要な世界101人の画家たち)に収録された、いわさきちひろと赤羽末吉の調査依頼を受け、遺族や国内の出版社とともに協力し、海外普及に努めた。 在日エストニア大使夫人の訪問を受け、当館のコレクションやいわさきちひろの作品、活動などを紹介した。エストニアにある子どもの本の国立センター(Estonian Children's Literature Centre)の展覧会や担当学芸員の紹介を受け、交流した。		2023年3月28日	両館
	アジアや世界の絵本関係者との相互学習	韓国の季刊文芸誌Jaeum & Moeumの絵本特集号に、ちひろ美術館とちひろを紹介する文章を寄稿した。		5月11日、5月26日	両館
	館の多言語情報のより多面的な発信とコンテンツの充実	さまざまな国や言語の来館者に対応すべく、館や展示の紹介等を、動画、印刷物、公式サイトなど多様な媒体を通して、魅力的効率的に発信した。グローバルサイトの各言語(英語・簡体字・繁体字・韓国語・ロシア語)のちひろの年譜ページに、ちひろの人生をより丁寧に伝えるため、写真とキャプションを13点追加掲載した。		4月	両館
海外の関係機関とのネットワーク	絵本や子どもの本の専門機関との提携活動	絵本や子どもの本の国際的専門機関であるIBBY(International Board on Books for Young People)とその日本支部のJBBY、シンガポールのAFCC(Asian Festival of Children's Content)、インドネシアのTacita(Pesta Cerita Anak, Indonesian Children's Story Festival)、スロヴァキアのBIB(Biennale of Illustrations, Bratislava)、日本国内の絵本学会、絵本ミュージアムネットワーク等との交流を深め、絵本文化発展のための相互協力を努めた。BIBの国内授賞式に参加し、関係者と交流を深めた。姉妹館であるエリック・カール美術館で2023年度に開催予定のEric Carle♥Japan(「エリック・カールは日本が好き」展)会期中のイベントに協力するための準備を進めた。		随時	両館
	絵本美術館ネットワークづくり	国を超えた絵本美術館のネットワークづくりのための調査、交流等を行った。		随時	両館

カ 絵本等に関する支援活動

絵本の専門家への支援活動	絵本の研究者、絵本作家等への研究・創作支援	絵本の研究を目指す学生、専門家、また、絵本作家等の絵本の専門家を対象に、求めに応じて、それぞれの研究テーマを精査した上で、当財団コレクションの絵本原画、絵本、資料を活かして研究や活動を支援した。		随時	両館
	絵本美術館に関する研究者、専門家等への研究支援	絵本美術館について学ぶ学生や専門家を対象に、求めに応じて、それぞれの研究テーマを精査した上で、当財団の絵本専門美術館の設置・運営に関する経験と実績、資料を活かした研究や活動を支援した。		随時	両館
展覧会鑑賞者・絵本受容者への支援活動	鑑賞者のより深い作品・作家理解のための解説、ガイドブックの作成、並びに画集・複製画の紹介、頒布	鑑賞者が作品や作家に興味を持ち、理解を深めるための手助けとして、解説やガイドブック、ワークシート等を作成、配布するとともに、画集や複製画の紹介、頒布等を行い、それらを通して鑑賞を助けた。		随時	両館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
展覧会鑑賞者・絵本受容者への支援活動	館内での絵本レファレンス、絵本紹介、読み聞かせ等への支援	絵本の問い合わせ等に随時対応する他、来館者を対象に、求めに応じて、絵本の紹介や、読み聞かせの方法等についてアドバイスを行う等、支援した。		随時	両館
	地域の図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ等への支援	地域の保育園、幼稚園、学校、図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設等と協力し、求めに応じて、絵本の選び方や読み聞かせの方法等についてアドバイスをを行い、地域住民が生活の中で日常的に絵本を楽しめるよう支援した。		随時	両館
		練馬区立石神井図書館、貫井図書館、南田中図書館と連携し、アートへの入口となる書籍を紹介するブックリストを、大人向け、子ども向けの2種作成し、館内での配布及び区内の小学校、中学校にも配布し、読書支援の取り組みとした。*文化庁：令和4年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業			
	展覧会鑑賞のバリアフリー化	東京・安曇野ともに、日本語を母語としない方や、視覚・聴覚障害をお持ちの方を対象に、スマートフォンからの音声や文字情報による解説を多言語で提供し、利用者のニーズに応えた。また、両館ともに、障害者手帳提示の方と介添1名までの入館料を無料とするなど、様々なニーズを持つ来館者の展覧会鑑賞を支援するためのバリアフリー化に取り組んだ。		随時	両館
地域の子育て支援団体との提携活動	地域の子育て支援団体等と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ等への支援	松川村保健センターと協力し、絵本の出会い事業として、同村の新生児とその保護者を対象にファーストブックを贈呈し、絵本の選び方や読み聞かせ等についてアドバイスを行った。	計44名	4月14日、6月9日、8月18日、10月13日、12月15日、2023年2月16日	安曇野ちひろ美術館

その他					
被災地支援	災害支援の取り組み	東日本大震災等の被災証明や被災証明を提示した来館者は全員無料とした。	東京館 2名 安曇野館 5名	通年	両館
		館内の来館者に対し、豪雨災害等日本各地での被災地支援の義援金を呼びかけた。		通年	安曇野ちひろ美術館
無料入館日	高校生以下無料	子どもたちがいつでも訪れることができる場所として、2005年以降行っている高校生以下無料入館の対応を、引き続き行った。	東京館 3,756名 安曇野館 9,179名 計 12,935名	通年	両館
	無料入館日の取り組み	美術館が人々にとって、魅力的で楽しい場所となるよう、受け入れを工夫し、美術館が社会に果たす役割を高め、より広範の人々にアピールする好機として、右記の通り、両館で無料入館日を設けた。	65歳以上の方対象 東京館 20名 安曇野館 89名	9月19日(敬老の日)	両館
			長野県民 松川村民対象 計1,172名	長野県民感謝デー： 11月26日、2023年3月26日 松川村民感謝デー： 2023年3月5日	安曇野ちひろ美術館
支援会員制度等	支援会員(寄付会員)制度等、寄付の取り組み	当財団およびちひろ美術館(東京・安曇野)の理念を積極的に伝え、世界的にも散逸しやすい絵本原画の収集・保存・研究・展示公開、並びに、絵本の普及や国内外での絵本文化支援活動を支えていただく寄付を呼びかけ、支援会員制度他の寄付を受けた。	支援会員数612名 (新規120名・継続492名)	通年	両館

収1

その他この法人の目的を達成するために必要な活動	ミュージアムショップの運営	来館者の展覧会鑑賞がより豊かなものとなるよう、ミュージアムショップの運営を行った。		通年	両館
-------------------------	---------------	---	--	----	----

■2022年度事業報告 入館者数一覧

1.絵本美術館の設置運営

2022年度の入館者数は、ちひろ美術館・東京24,897名、安曇野ちひろ美術館73,964名、両館合計で98,861名となった。

■ちひろ美術館・東京

2022年4月～2023年3月 入館者数内訳(月別)

月	開館日数	有料入館者数		無料入館者数						全入館者数	1日平均入館者数
		大人	小計	中高生	小学生	幼児	支援会員	招待者 その他無料	小計		
4	26	1,649	1,649	52	92	256	12	209	621	2,270	87
5	26	2,478	2,478	41	128	295	12	300	776	3,254	125
6	22	2,390	2,390	15	63	273	19	346	716	3,106	141
7	27	1,393	1,393	70	99	201	12	137	519	1,912	71
8	26	1,675	1,675	161	168	216	11	152	708	2,383	92
9	26	2,006	2,006	15	117	175	19	225	551	2,557	98
10	22	1,785	1,785	38	79	157	26	251	551	2,336	106
11	26	1,606	1,606	61	117	193	20	285	676	2,282	88
12	23	1,139	1,139	33	61	117	22	300	533	1,672	73
1	13	1,229	1,229	36	84	120	16	246	502	1,731	133
3	12	993	993	27	73	123	10	168	401	1,394	116
合計	249	18,343	18,343	549	1,081	2,126	179	2,619	6,554	24,897	100
構成比		73.7%	73.7%	2.2%	4.3%	8.6%	0.7%	10.5%	26.3%	100.0%	
前年合計		12,108	12,108	388	829	1,518	104	2,121	4,960	17,068	75
前年比		151.5%	151.5%	141.5%	130.4%	140.1%	172.1%	123.5%	132.1%	145.9%	134.2%

- * 2022年度の入館者総数は24,897名(100名/日)。2021年度より7,829名増加(前年比145.9%)。目標数(23,000人)比1,897名プラス、達成率108.2%。
- * 空調設備工事のため1月16日から3月16日まで休館、開館日数は249日(通常開館の2019年度は264日)
- * 入館者割合は、大人:中高生:小学生:幼児が、85:2:4:9(2021年度は84:2:5:9)。
- * 年間パスポート販売数は103枚(309,000円)。利用者数(リピーターを含む)は460名。(2021年度の年間パスポート販売数は90枚、利用者数は379名)
- * 「ぐるっとパス」入館者数は2,482名(2021年度1,439名、前年比172.5%)。
- * 外国人利用者は、年間で111名(前年32名、前年比346.9%)。

■安曇野ちひろ美術館

2022年4月～2023年3月 入館者数内訳(月別)

月	開館日数	有料入館者数		無料入館者数							全入館者数	1日平均入館者数
		大人	小計	中高生	小学生	幼児	支援会員	その他無料	松川村招待者	小計		
4	26	4,015	4,015	256	249	247	5	404	102	1,263	5,278	203
5	25	7,725	7,725	239	438	444	2	590	100	1,813	9,538	382
6	23	4,300	4,300	202	140	185	2	330	120	979	5,279	230
7	27	6,883	6,883	266	454	390	7	499	142	1,758	8,641	320
8	26	11,096	11,096	894	1,185	806	0	749	172	3,806	14,902	573
9	22	5,886	5,886	79	215	334	1	611	107	1,347	7,233	329
10	27	7,883	7,883	203	433	273	44	703	149	1,805	9,688	359
11	25	6,166	6,166	75	209	271	2	889	120	1,566	7,732	309
12	4	453	453	22	28	32	0	91	29	202	655	164
3	27	2,993	2,993	152	285	173	3	1,248	164	2,025	5,018	186
合計	232	57,400	57,400	2,388	3,636	3,155	66	6,114	1,205	16,564	73,964	319
構成比		77.6%	77.6%	3.2%	4.9%	4.3%	0.1%	8.3%	1.6%	22.4%	100.0%	
前年合計		37,489	37,489	2,530	3,408	2,767	57	5,152	981	14,895	52,384	230
前年比		153.1%	153.1%	94.4%	106.7%	114.0%	115.8%	118.7%	122.8%	111.2%	141.2%	138.8%

- * 2022年度の入館者総数は73,964名(319名/日)。2021年度比21,580名増(前年比141.2%)、目標数(80,000名)比6,036名マイナス、達成率92.5%。
- * 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年に引き続き毎週水曜日を休館日とし、12/5から冬期休館とした。
- * 2022年度の開館日数は232日。2021年度は228日(前年比101.7%)。
- * 入館者割合は、大人:中高生:小学生:幼児が88:3:5:4(2021年度は83:5:7:5)。
- * 年間パスポートの販売数は67枚(201,000円)、利用者数(リピーターを含む)は235名。
- * 団体入館者数は、5,499名(2021年度は4,074名・前年比135%)。入館者全体に占める団体割合は7.4%(2021年度は7.8%)。内、台湾や韓国など海外からの来館者は21名。(2021年度は0名)。

■2022年度 事業報告書の附属明細書

当財団の事業報告書については、附属明細書に該当する事項がないため、附属明細書を省略する。